

平成27年度 日南市立南郷小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン:豊かな心と自ら学び考える力をもち、たくましく生きる児童の育成

【評価】 4:よい、3:だいたいよい、2:もう少し、1:よくない

| 教育的課題 | 重点指導事項 | 評価項目 | 4と3の割合(%) | | | | 総合 | 考察及び改善策 | 学校関係者評価委員の意見 |
|-----------|--------------------------|--|-----------|-----|-----|-----|----|---|--|
| | | | 児童 | 保護者 | 地域 | 職員 | | | |
| 確かな学力 | 基礎・基本的な力を習得させる。 | ①子どもたちに、基本的な学力(読み、書き、計算の力)が身に付いている。 | 93 | 85 | | 62 | 3 | ③については、職員研修で「書く時間を設定し、自分の考えや学習のまとめなどを書く活動の在り方」について継続研究中であり、実践を進めることで改善を図っていきたい。 ④については、子どもが考えを出しやすい学級経営を基盤とし、話し合いを活性化させる手立てを見直す。 ⑤については、朝の時間や授業において個別に支援が必要な状況を把握し、学級担任のみだけでなく、全職員体制で指導を行う。 | 【①について】 ○ ボランティアで学校に行った時に子どもたちの学習の様子を見ていると、子どもたちは先生をしっかりと見ながら授業を受けている。学習の態度は立派である。 【④について】 ○ 人とコミュニケーションをとることが苦手な大人も増えてきているように感じる。他人と話し合ったり、コミュニケーションをとったりする力を身に付けさせて欲しい。 |
| | | ②子どもたちは、学用品を適切に使用し、望ましい態度で授業にのぞんでいる。 | 88 | 90 | | 85 | | | |
| | 考える力や表現する力を育てる。 | ③子どもたちは、自分の考えを文章で表現することができる。 | 80 | 65 | | 40 | | | |
| | | ④先生は、子どもが自分の考えを基に話し合っ解決する学習指導を行っている。 | 84 | 88 | | 70 | | | |
| | 児童が目標をもち自ら学習する意欲を育てる。 | ⑤まとめのテストやWeb調査において達成率が不十分な内容を次の学習に生かす。 | | | | 65 | | | |
| | | ⑥教室は、子どもが学習しやすい環境が整えられている。 | 93 | 93 | | 100 | | | |
| 豊かな心 | 校外における基本的な生活習慣を育てる。 | ⑦子どもたちは、家庭や地域でも進んであいさつをしている。 | 90 | 86 | 86 | 70 | 3 | ⑦については、昨年度よりも評価の割合が向上しているため、それをほめるとともに、地域の方との交流の中で挨拶の実践を推奨する。 ⑪については、道徳の指導計画を見直し、7月の道徳参観日や各教科などと関連を図りながら進める。 ⑫については、校内だけでなく地域や家庭等においても思いやりのある行動を取るよう、道徳や人権教育等も踏まえ、適時指導する。 | 【⑦について】 ○ 朝の立ち番指導をしている時は、ユニフォームを着ているためか、子どもたちはきちんとあいさつができる。しかし、下校時に会った時は、友だちと話をしながら歩いている時が多く、あいさつに意識が向いていないようである。 ○ 職員全員が目標を理解して指導を行うことが大切である。校長の考えを周知できると更に良くなると考える。 |
| | | ⑧子どもたちは、きまりを守り、時と場に応じた行動をしている。 | 93 | 87 | 84 | 75 | | | |
| | 児童を理解し、一人一人を大切に育てる。 | ⑨ハートフル委員会等で児童理解に努め、生徒指導に関する共通実践に生かす。 | | | | 95 | | | |
| | | ⑩先生は、子ども一人一人を大切に、子どもに関する相談に適切に応じている。 | 96 | 90 | | 90 | | | |
| | 命や人権を大切にする豊かな心を育てる。 | ⑪補充、深化、統合の視点から道徳の時間の工夫を行う。 | | | | 39 | | | |
| | | ⑫子どもたちは、友だちやまわりの人に思いやりのある行動をしている。 | 94 | 89 | 78 | 89 | | | |
| 自立の態度 | 自他の命を守り、健康な体を育む意識を育てる。 | ⑬子どもたちに、自分の身を守るための判断力や行動の仕方が身に付いている。 | 95 | 79 | 61 | 65 | 4 | ⑬については、危険を感じ、察する力を育てるために、今後も学級における指導や集会における全体指導で、写真を見せながら具体的に考えさせる指導を工夫する。避難訓練においても、指示に従うことと自分で考えることを事前に指導し、実際の訓練や行動場面で活用できるようにするとともに、通信等で情報を発信する。 | 【⑬について】 ○ 登校時に歩道橋の下を通る児童がいた。危険な場所や行動に気付くことができる子どもにしていく必要がある。 ○ 保護者やPTAと連携した取組が求められる。そのためにも地区懇談会において、保護者が目的意識をもって具体的に取り組む必要がある事項について話し合っていく必要がある。 |
| | | ⑭学校は、子どもの健康安全に配慮し、保健や給食の面で適切に対応している。 | 93 | 95 | 100 | 95 | | | |
| | 生活に適した環境を整える態度を育てる。 | ⑮校内は、生活する場としてふさわしい環境美化がなされている。 | 92 | 93 | 100 | 95 | | | |
| | 体力の向上に努める態度を育てる。 | ⑯学校は、子どもの体力を高める取組に努めている。 | 87 | 93 | 86 | 95 | | | |
| 家庭・地域との連携 | 家庭と協力して教育活動を推進する。 | ⑰学校は、参観日や懇談会を魅力あるものにするように努めている。 | 88 | 92 | 83 | 90 | 4 | ⑰については、参観率に比べ懇談率が低いので、引き続き懇談の内容や進め方など、保護者の興味を考慮しながら工夫する。 ⑱については、地域の方々の協力により、学習効果を上げているので、今後も外部ボランティアの協力を願う。 | 【⑰について】 ○ 特に懇談会は、保護者の中からリーダーを育てていく必要がある。懇談会の内容や方法等、保護者と教師と一緒に考えながらつくりあげていくと良いのではないかと。 |
| | 地域の教育力を生かし、特色ある学校づくりを行う。 | ⑱学校は、地域及び外部の方の協力を得ながら教育活動の充実を図っている。 | 95 | 94 | 93 | 100 | | | |